

研究テーマ	[IV 人や作品との対話やかかわりを大切にした造形教育を考える] 新しい価値を見出す友達との関わりを通した題材の工夫 - 中学1年生「本物そっくりの落ち葉をつくろう」の実践を通して -
-------	---

前つくばみらい市立小絹中学校
現つくばみらい市立谷和原中学校 教諭 飯沼純子

1 研究テーマについて

自分だけの個人内制作では自信がもてなかったり、学習が身についているか不安になったりする生徒もいる。また、自分の思いだけで制作を進めると自分本位の作品に仕上がってしまうことがある。そこで、生徒同士でお互いに作品を見合うといった相互鑑賞を行い、友達との交流を繰り返す中で更なる発見や制作意欲の喚起につながると考えた。

生徒は作品制作を進める過程で、友達からの発言や意見、感想により制作への意欲をもち続けている。このことから、制作段階の場面で効果的に相互鑑賞を行い、発想構想を広げられる手だての開発としてテーマに迫りたい。

効果的に友達との相互評価を取り入れるには、制作段階にあわせた効果的な場の設定が重要になる。まず制作段階を3つに分けると、最初に発想（アイデア）を練る段階がある。次に、構想（レイアウト）を決める作業がある。そして、実際に作品制作にかかる作成の時間である。生徒の実態に合わせて生徒に身につけさせたい力をどの段階で焦点をあてるかが重要になってくる。中学1年生では、発想を練る段階に着目した。主に色彩学習においてイメージした配色を決める段階で相互評価を行った。ここでは学習した事項が理解できているかを友達と見合い、定着を図る。中学2年生では、発想・構想を練る段階を重視した。自分を見つめて、イメージした世界を描くといった想像画の制作を行っている。アンケートでは、発想構想に苦手意識のある生徒が少なくない。想像して描くことは、中学生になると内向的になったり自分に自信がもてなかったりして心の中を表現するといった題材に拒否反応を示す生徒もいる。そのような生徒には、アイディアスケッチを展示して友達の作品を鑑賞するという事は、他の生徒の考えを知ることや様々な作品から影響を受けて自分の作品に生かすこともできるようになる。また、全くアイデアが浮かばない生徒には発想のきっかけを与えることにもなる。中学3年生では1, 2年で既習した発想力や構想力を生かしての制作段階を重要視した。卒業制作の段階で中間鑑賞会を行い、コメントをもらうという時間を設けた。制作途中での鑑賞会は、つまずいた生徒への意欲喚起やさらなる手だての助言など生徒同士で切磋琢磨しながら作品を良くしていく手だてを知るのに有効だと考えた。

中学3年間を見通して系統立てた題材の選定や鑑賞プロセスを通して、生徒は自分の思いや感じたことを具現化させて作品として表現することができる。その中で中学1年生では、発想の力を育てるために基礎基本を身につけることが重要であり、その後の美術への関わりを左右するものになる。今回は、特にその初歩段階である中学1年時の発想の段階に焦点を当てて研究した。

2 実践例

(1) 題材名 本物そっくりの落ち葉をつくろう

(2) 題材の目標

- ・形や色彩などの表し方、材料や用具の生かし方などを主体的に工夫して表現しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ・形や色彩の効果を生かして創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。
(発想構想の能力)
- ・材料や用具、技法の特性を生かし、葉の色合いや質感に迫り、より本物に近づけるための工夫を見出し作品に生かしている。
(創造的な技能)

- ・形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。(鑑賞の能力)

(3) 題材について

本題材は、学習指導要領解説美術編の教科目標である、第1学年「A表現」(1):感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想に関連する「学年の目標」第1学年(2)対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる」に重点をおいている。評価の趣旨には、「感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたことを豊かに発想し」とある、今回の題材では、粘土を使って本物の落ち葉の形や色の美しさを味わいながら色彩や造形の学習を併せて行う。初見の紅葉した落ち葉を目にした際の感動をそのまま作品に表現するために短時間での制作にした。そして既習した混色や重色、水彩絵の具の基本技法を生かして作り上げていく。過程で色作りに自信がもてなかったり、制作に集中できなかったりする生徒には、教師が一方向的に助言アドバイスするだけでは、生徒自身が実感をもって発見するという段階までもっていくことは難しい。そこで、友だちからの意見や感想、アドバイスなどが有効になる。同じ制作者として作品を前にして感じることは自然と生徒の心に入っていこう。また、生徒が思い思いの落ち葉を選び、惹かれた部分に着目させ、色の美しさを自分の手で表現させることで感動を伝えられる実体験を味わうことで今後の作品制作へのステップになると考えた。

(生徒の実態) 1年1組 9月実施 (調査人数31名)

① 美術の作品制作過程で特に好きだと思うところはどこですか？			
アイデアを考えると	5名	デザインや技法を考えると	3名
実際の作品作り	19名	完成した作品のよさをみつけると	2名
その他	2名(全部)		
② 美術の作品制作過程で特に苦手だと思うところはどこですか？			
アイデアを考えると	15名	デザインや技法を考えると	7名
実際の作品作り	6名	完成した作品のよさをみつけると	2名
その他	1名(全部)		

このクラスは美術に対する興味や関心が高い生徒が多い。学級が仲良く、普段から学級活動ではグループ単位で学習することが日常的に行われており、意見や感想も的確に言い合える関係である。アンケート結果によると、美術を苦手だと考えている生徒は少数にとどまっており、好きな生徒が大半を占めている。しかし、制作につまずくのはどの段階が多いかという質問では、アイデアを練る段階や構想を立てる段階と答える生徒の割合が多かった。

制作段階に合わせた場の設定が重要になってくる。アイデアを練る段階が苦手だという生徒には、小グループでアイデアを出し合うワークシートの工夫をしたり、全員参加型の作品展示をしたりといった友だちの作品を見る機会を意図的に増やした。そのような相互鑑賞を繰り返す中で、自分の作品に立ち返り制作を見直す契機にしたり、友だちの作品から制作のヒントを得たりと積極的な制作へと転化させたい。

(4) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>・粘土の可塑性を生かした形作りや水彩絵の具の基本技法を生かした色彩の表し方、材料や用具の生かし方などを主体的に工夫して表現しようとしている。</p>	<p>・紅葉した落ち葉を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出している。</p> <p>・形や色彩の効果を生かして創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p>	<p>・形や色彩などの表し方を身につけ、表したいイメージをもちながら意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現している。</p> <p>・葉の色合いや質感に迫り、より本物に近づけるための工夫を見出し作品に生かしている。</p>	<p>・形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。</p>

(5) 指導と評価の計画 (4時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価規準【評価方法】
第1次 ①	粘土造形について説明し、作りたい落ち葉を選び、同じ形を造形する。葉脈などの細部や葉全体の凹凸などの表現方法を学び、制作する。	<p>・参考作品をみてどんな課題なのか興味をもつことができる。 関【観察・ワークシート】</p> <p>・葉を造形していく工程を理解し制作し、凹凸や細部まで形を探究している。 技【観察・作品】</p>
第2次 2 / ② 本時	水彩絵の具の基本技法を作品に生かして彩色していく。 オリジナルの色を作る。 技法を使う。 中間鑑賞会 さらに良くしていくためのアドバイスを書く。	<p>・水彩絵の具の基本技法を理解して効果的な色を作り出すことができている。 想【観察・ワークシート】</p> <p>・葉の色合いや質感に迫り、より本物に近づけるための工夫を見出し作品に生かしている。 技【観察・作品】</p> <p>・自分の作品と友達の作品を比べて良い点を見つけることができる。 鑑【ワークシート】</p> <p>・友達のアドバイスを受けてさらに作品を良くする工夫ができる。 技【観察・作品】</p>
第3次 ①	鑑賞会を行う。良い点や工夫点を伝え合う。	<p>・グループや学級、学年の友達の作品を積極的によくみて、新たな発見や表現の工夫を感じ取り、共感したり認めたりし合うことができる。 鑑【作品・ワークシート】</p>

(6) 本時の展開

① 目標

友達の作品のよさをみつけ、さらに良くするためのアドバイスをすることができる。(鑑賞の能力)

② 準備・資料

作品・制作カード・相互鑑賞カード(ワークシート)

③ 展 開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価・発問
<p>1 本時の学習課題を確認する</p> <div data-bbox="124 280 823 376" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友だちの作品の良さをみつけ、もっと魅力的な作品にするためのアドバイスを考えよう。</p> </div> <p>2 本課題での身に付けたい力の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作カードへ記入させる。 ・意識して作品へ取り入れている物に○を記入する。 <div data-bbox="151 616 794 712" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・混色・重色・にじみ・ぼかし・点描 ・ドライブラッシュ・洗い出し </div> <p>3 落ち葉の制作をする。</p> <p>4 グループごとに鑑賞の時間をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互鑑賞カードを左回りに回す。 <div data-bbox="331 987 555 1249" style="text-align: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞のポイントを板書し、ワークシートの項目を書く。 <div data-bbox="124 1480 823 1682" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①水彩絵の具の基本技法を使って描いているか ②オリジナルの色を作り出しているか ③自分の作品と比べて発見したことは何か ④ここをこうすると良くなると思うところはどこか </div> <p>5 後半の制作へ向けての確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスをもらって次回からの制作に生かせることを考える。 <p>6 次時の制作内容の連絡をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回制作している課題を確認し意識を向けさせる。 ・どんな力を付けさせたいか生徒に伝え、ワークシートで自分の活用する技法を明確にする。 ・紅葉した落ち葉の色の美しさや形態の美しさに気づかせるよう光にかざしてみせ制作への意欲付けとする。 ・混色するときの絵の具の混ぜ方やパレットの使い方を助言する。 <div data-bbox="850 577 1505 674" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>薄い色や弱い色に濃い色や強い色を少しずつ混ぜてつくろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・パレットに色が一色しかできない生徒には、模範となる生徒のパレットを提示して色数を増やす絵の具の混ぜ方をおしえる。 <div data-bbox="850 819 1505 916" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>必ず混色をして色を作ること。2色より3色、分量を変えて違う色を作ってみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・形が実際の葉と合わなくなってしまった生徒には本物の葉のどこが一番魅力的に感じたかを聞き、その一部分にだけこだわった作品でも良いことを伝える。 ・壊れてしまった生徒の作品には授業終了後乾いてからボンドで修正することをおしえ、今の作業(色をおいていく作業)に集中するように伝える。 ・混色や重色が理解できていない生徒には資料集や前回行ったワークシートを参考にするように助言する。 ・鑑賞コメントを書く際には、学級の雰囲気をやわらげる言葉がけをする。 <div data-bbox="850 1491 1505 1588" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>自分にとってすごいなあと感じる部分はどこだろう。探してみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を誹謗中傷することは絶対にしないという約束を確認する。 ・単なる感想発表ではなく、自他のよさや違いに気づきお互いを認め合う意識を高められるよう助言する。 <div data-bbox="850 1877 1505 2022" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>鑑友達の作品のよさをみつけ、さらに良くするためのアドバイスをすることができる。 (ワークシート・観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の制作では、今回友だちからもらった意見を反映させた制作にするよう助言する。

